

令和7年度交付金事業に係る評価専門委員会の開催結果について

1 開催概要

中高年代活躍応援プロジェクト千葉県協議会事業実施計画 第7に規定する交付金事業については、事業実施後に県が効果検証・評価を実施することとされており、学識経験者等の第三者から構成される専門委員会※において、事業年度ごとに評価を実施しています。

令和7年度交付金事業に係る専門委員会は令和8年7月28日に開催し、各事業実施団体から説明を行った上で、委員から評価・助言を頂きました。

※社会参加活躍支援等孤独・孤立対策推進交付金（社会参加活躍支援等孤独・孤立対策関連事業（個別支援事業））事業評価専門委員会…交付金事業の効果検証・評価を実施することを目的として、協議会会議内に設置。

【委員名簿】

区 分	委 員	備 考
学識経験者	宮本 みち子	放送大学名誉教授・千葉大学名誉教授
経済団体	本村 直也	一般社団法人千葉県経営者協会専務理事
労働団体	中島 正敏	日本労働組合総連合会千葉県連合会事務局長
行政機関	鹿野 和幸	千葉労働局職業安定部職業安定課長

2 評価対象事業

No.	実施主体		事業名
1	千葉県	(雇用労働課)	ミドル世代活躍支援事業
2	千葉市	(雇用推進課)	就活応援スクール事業
3	船橋市	(商工振興課)	ふなばし地域若者等自立支援事業
4	松戸市	(商工振興課)	まつど地域若者等就労支援事業
5	柏 市	(産業政策・スタートアップ推進課)	若者等の職業自立支援事業
6	白井市	(産業振興課)	孤独・孤立支援重点対策事業（就労支援）

※各事業の概要及びK P I の達成状況は5を参照。

3 専門委員会における主な意見（要旨）

- ・就職氷河期世代や中高年層については、就職につながりやすい方だけでなく、就職に至っていない方の実態を把握し、対象者に応じた支援を検討する必要がある。
- ・対象母集団や対象者像をできるだけ正確に把握し、事業の対象者や目標設定の根拠を明確にすることが望ましい。
- ・セミナーや相談に加え、職場見学や職場体験、伴走型支援など、対象者の状況に応じた支援手法を充実させることが重要である。
- ・サポステをはじめとする既存の就労支援機関との連携や役割分担を整理し、県全体として方向性を共有しながら事業を推進することが望ましい。
- ・若年層の課題が中年期にもつながることを踏まえ、切れ目のない支援の在り方を検討する必要がある。

4 今後の対応等

専門委員会の各委員からの意見・助言を基に、関係機関との連携をより一層強化し、多様化する就職氷河期世代を含む中高年世代の課題や適性を考慮した幅広い支援の実現に引き続き努めてまいります。

5 各事業の概要及びK P I の達成状況等

(1) 千葉県実施事業

【事業名】 ミドル世代活躍支援事業

【事業概要】 就労支援プログラム（就職支援講座、企業との交流会等）の実施、一人ひとりのニーズに合わせた就職先の紹介など、きめ細かい就職支援を実施する。

併せて、企業への受け入れ体制構築に向けた支援や就職後の定着支援を行う。

【K P I の達成状況】

指標名		令和6年度末 時点	令和7年度
KPI①: 本事業新規利用者数 (人)	目標		350
	目標と前年度 実績値の差		-233
	実績	583	308
KPI②: 本事業による就職決 定者数（非正規を含む）(人)	目標		100
	目標と前年度 実績値の差		-105
	実績	205	49

【目標値と実績に乖離※がある場合の主な理由（令和7年度）】

（※目標未達成又は実績が目標を5割以上上回った場合）

- ・（K P I ①）・年度途中（R7.8）からの事業開始により、事業の周知期間を十分に確保できなかったこと、また、セミナー等集客性の高いイベントの実施が10月以降であったことから、新規利用者数が伸びなかった。
 - ・合同企業説明会等の大規模なイベントをきっかけとした利用者は多数いた。
- ・（K P I ②）・各種支援から就職決定に至るまでの支援期間が長く、就職決定の成果までに日数を要した。
 - ・雇用保険受給後の就業を希望するなど、じっくり就職活動を進めたいという求職者が多数いた。

【事業の実施状況及びその成果等】

【R 7 年度実績】

- ・就活スタンバイ講座の開催（回数：3回、参加者：32名）
- ・就活スキルアップ実践講座の開催（回数：5回、参加者：51名）
- ・スキルアップを考える講座の開催（回数：2回、28名）
- ・ワークライフセミナーの開催（回数：4回、66名）
- ・合同企業説明会の開催（回数：2回、参加者：76名）
- ・職場見学会の実施（回数：1回、参加者：5名）
- ・企業向けセミナーの開催（回数：2回、参加企業数12社）
- ・随時 千葉県ジョブサポートセンターでの相談支援（754名）
- ・広報活動実施（市町村、労働局、県出先機関、就労支援施設、職業訓練校、相談機関、関係機関に広報チラシ配架、県HP、県広報X、県内企業にDM送付、中高年世代活躍応援プロジェクト千葉県協議会構成員との連携・協力による周知など）

【事業開始から現在に至るまでの総括】

新規利用者数（実績308人）、就職決定者数（実績49人）ともに目標を達成できなかった。新規利用者数については、年度途中からの事業開始により、支援内容の魅力を利用者に周知しきれなかったことによるものと考えている。就職決定者数については、想定した新規利用者数に達しなかったことに加え、就職する意思はあっても、うまく軌道に乗れない状況を引きずっていることで、働くことに自信のない方や職場でのコミュニケーションに不安を抱く方など、様々な事情を抱えた方などがおり、支援に時間がかかることや、そもそも雇用保険受給終了後に就労ができるようじっくり活動したいという利用者も多数いたため、伸び悩んだものと考えている。

なお、セミナーや合同企業説明会における参加者を対象としたアンケートでは「大変有意義だった」、「今後の求職活動の参考にしたい」との感想が多かった。令和7年度事業から始めたワークライフセミナーでは、「働くこと、生活することについて長期的に考える良い機会になった」と好評であった。合同企業説明会に参加された県内企業からは、「無料で参加でき、PRもできるためまた参加したい」、「開催してほしい」という声をいただいた。

困難や課題を抱えた方には、令和8年度も引き続き、カウンセリング、セミナー受講での就職基礎知識の習得、合同企業説明会の開催によるマッチング支援などの一連のプログラムを実施していく。

(2) 千葉市実施事業

【事業名】 就活応援スクール事業

【事業概要】 就職に必要な知識を体系的に学べるスクール形式のプログラム「就活応援スクール」を基軸とし、千葉市ふるさとハローワーク相談員によるキャリアカウンセリングやリスキリング相談を併用した一貫型・伴走型の事業を実施することで早期就職の実現を目指す。

【KPIの達成状況】

指標名		令和6年度末 時点	令和7年度
KPI①：事業参加者の就職者数（人）	目標		15
	目標と前年度実績値の差		15
	実績		4
KPI②：スクール受講者数（人）	目標		30
	目標と前年度実績値の差		30
	実績		9

【目標値と実績に乖離※がある場合の主な理由（令和7年度）】

（※目標未達成又は実績が目標を5割以上上回った場合）

- ・（KPI①）・受講者数（KPI②）が少なかったため、目標値を下回っている。
 - ・本事業で「就職活動基礎」等を受講したことにより、自分の苦手分野や課題への気づきにつながり、就職活動に不安を抱えている層に対して、一定程度の効果があったものと推測する。一方、アンケート結果では、実施期間が短い、といった意見や、受講後の就職目標を半年から1年程度としている受講者が約半数あり、就職活動経験が少ない受講者にとっては直ちに就業には結びつかなかった。
- ・（KPI②）・対象者が「就職氷河期世代を含む幅広い世代」と広く設定したことにより、「誰に向けた支援か」が伝わりにくく、申込につながらなかった。
 - ・第1期は周知期間が短かったこともあり、申込者が3人とどまった。第2期では、全9日間のうち、一部科目のみの受講も可能にする等、参加しやすい体制に組み替えたことにより、定員数には満たないものの、申込者は10人（受講者9人）となった。
 - ・他機関で実施されている事業との内容の差別化ができておらず、他機関から利用者への紹介が難しいケースが見受けられた。

【事業の実施状況及びその成果等】

【R 7 年度実績】

- ・第 1 期（10 日間（51 時間）、参加者：3 人）
実施内容：ビジネスマナー（20 時間）、就職活動基礎（6 時間）、PC 研修（24 時間）、
ふるさとハローワーク見学会（1 時間）
- ・第 2 期（9 日間（50 時間）、参加者：6 人）
実施内容：ビジネスマナー（20 時間）、就職活動基礎（6 時間）、PC 研修（23 時間）、
ふるさとハローワーク見学会（1 時間）
- ・広報活動実施
事業専用 HP 開設、市 HP、市広報紙、民間の地域情報誌、広報チラシ配架（区役所、
市内公共施設、労働局、就労支援施設、職業訓練施設、相談機関、高校・大学等）

【事業開始から現在に至るまでの総括】

令和 7 年度から本事業を開始し、初年度は参加者の確保に課題が残った。

一方、第 1 期・2 期ともに、受講者全員が欠席することなく全てのカリキュラムに出席し、高い受講意欲が見られた。受講者アンケートにおいても高い満足度となっており、約 4 割の受講者が就職できたことから、就職活動に不安を抱える層に対する支援として、一定の効果を上げたものと考えられる。

また、ふるさとハローワークにおけるキャリアカウンセリングも実施したが、居住地が遠い方もいたことや、既に利用している就職支援機関があったこと等から、スクール終了後のふるさとハローワークによる継続的な支援にはつながらなかった。

令和 8 年度以降は、スクールの内容や開催時間・場所等を見直すとともに、ハローワーク等との連携により出口支援を強化することで、受講者・就職者の増加を目指す。

（３）船橋市実施事業

【事業名】 ふなばし地域若者等自立支援事業

【事業概要】 「ふなばし地域若者サポートステーション事業」において、就労が困難な若年層から就職氷河期世代までの幅広い世代向けに実施する社会参加の機会や学び直し、就労に向けたノウハウの獲得に向けた支援をする。

【KPIの達成状況】

指標名		令和６年度末 時点	令和７年度
KPI①：就業者数（正規雇用、非正規雇用、自営・起業・内職等の人数）（人）	目標		120
	目標と前年度実績値の差		14
	実績	106	114
KPI②：合同企業説明会の参加者数（人）	目標		60
	目標と前年度実績値の差		21
	実績	39	65
KPI③：個別土曜相談及び出張個別相談における相談人数（本人及び保護者）（人）	目標		60
	目標と前年度実績値の差		-46
	実績	106	63

【目標値と実績に乖離※がある場合の主な理由（令和７年度）】

（※目標未達成又は実績が目標を５割以上上回った場合）

- ・（KPI①）・就業者数及び就業者に繋がる新規登録者数ともに昨年度を上回る実績となったが、わずかに目標値に届かなかった（・令和７年度－新規登録者：201名、就業者：114名・令和６年度－新規登録者：165名、就業者：106名）。

【事業の実施状況及びその成果等】

【R 7 年度実績】

- ・ 合同企業説明会－2 回開催（参加者：65 名）
- ・ 就労相談－1,260 回実施（参加者：1,260 名）
- ・ 心理相談－75 回実施（参加者：75 名）
- ・ 生活相談－321 回実施（参加者：321 名）
- ・ 職業人講話－9 回実施（参加者：16 名）
- ・ 職場見学－43 回実施（参加者：89 名）
- ・ パソコン講座－53 回実施（参加者：158 名）
- ・ イベント・ボランティア活動－2 回実施（参加者：5 名）
- ・ 保護者を対象とした講演会－2 回実施（参加者：13 名）
- ・ 学び直し支援－95 回実施（参加者：95 名）
- ・ 保護者の会－12 回実施（参加者：11 名）
- ・ 個別土曜相談－11 回実施（参加者：9 名）
- ・ 出張個別相談会－16 回実施（参加者：33 名）
- ・ 自宅または自宅近辺への出張相談－21 回実施（参加者：21 名）

【事業開始から現在に至るまでの総括】

概ね予定どおりに事業を実施できたが、職場体験については希望者がおらず、実施することができなかった。

総じて、KPI①は目標値には届かなかったものの、事業をとおして対象者への心理的なフォローや企業側へのアプローチを行うことで、目標値に近い就業者と社会参加者をだすことできた。就業者については早期退職することのないよう丁寧にフォローをしていくことも重要と考えているため、定着支援やステップアップ支援を就業後も実施する。

当事業は平成 25 年度より業務委託により実施しているが、働くイメージができないといった支援に時間を必要とする者の割合が増加している傾向にある（平成 25 年度－新規支援者全体の約 15%、令和 7 年度－新規支援者全体の約 35%）。その状況においても、KPI①は例年目標値に近い実績を出していることができています。今後も KPI①を主とした目標値の達成をすることに向けて、直近数年間の状況を踏まえ、質量ともに 1 人あたりに必要とする支援が増加していくことを考慮し、きめ細やかな自立支援により就労意欲の向上に繋がる施策の充実を図る。

(4) 松戸市実施事業

【事業名】 まつど地域若者等就労支援事業

【事業概要】 まつど地域若者サポートステーションにおいて、個別相談・セミナー事業を拡大して実施し、幅広い世代に対して、切れ目のない就労に向けた支援を強化し、孤独・孤立の防止を図る。

【KPIの達成状況】

指標名		令和6年度末 時点	令和7年度
KPI①：新規登録者数（人）	目標		175
	目標と前年度 実績値の差		7
	実績	168	230
KPI②：就職決定者数（非正規雇用を含む）（人）	目標		155
	目標と前年度 実績値の差		11
	実績	144	156

【目標値と実績に乖離※がある場合の主な理由（令和7年度）】

（※目標未達成又は実績が目標を5割以上上回った場合）

- ・該当なし

【事業の実施状況及びその成果等】

【R 7 年度実績】

- ・ 事業に参加した人数 6,052 名（うち就職氷河期世代の割合 23%）
- ・ 社会参加者数 491 名（うち就職氷河期世代の割合 10%）
- ・ 就業者数 170 名（うち就職者数 156 名）
- ・ 相談件数：
地域若者サポートステーション 2,884 名、まつどキャリアサポートデスク 279 名
- ・ セミナー件数：
地域若者サポートステーション 2,318 名、まつどキャリアサポートデスク 80 名
- ・ ジョブトレーニング、職場見学、職場体験：
地域若者サポートステーション 478 名、まつどキャリアサポートデスク 13 名

【事業開始から現在に至るまでの統括】

昨年度まで実施していた松戸市就職氷河期世代キャリア支援プログラムでは、KPI の達成状況をみると、事業参加者総数は令和 6 年度を除き達成しているのに対し、就職者数は令和 4 年度以外は未達成となっていた。当該事業では、セミナー・相談・マッチングイベント等が独立したメニュー構成となっていたため、相談を利用した人は伴走型の支援ができていた一方で、セミナーやマッチングイベントだけの参加者も多く、その結果就職に結びつきづらいという理由があった。そのため令和 7 年度より地域若者サポートステーション内に「まつどキャリアサポートデスク」を設置し、相談から就職まで求職者一人一人に合わせた伴走的な支援を行うこととなった。

当初の予定どおり事業を実施し KPI を達成できた一方、企業開拓担当が 1 名体制であるため、利用者の多様なニーズに対し、見学同行や体験同行といったきめ細かな対応が十分に行えていないことや、スケジュールの空き状況に応じて、相談員がインテークを実施しているため、相談員の専門性を活かした支援体制の構築が困難な状況にある等、増加するニーズに対して人手不足という課題が認められた。

上記を踏まえ、令和 8 年度は当事業を引き続き実施するとともに、人手不足については人員配置等の改善を図る予定である。

(5) 柏市実施事業

【事業名】 若者等の職業自立支援事業

【事業概要】 「かしわ地域若者サポートステーション」において、個々人の実情に寄り添い、相談・訓練から就職、就職後のアフターフォローまで、きめ細かな一貫型・伴走型の支援事業を実施する。

【KPIの達成状況】

指標名		令和6年度末 時点	令和7年度
KPI①：利用者数(新規登録者数及び継続利用者数)(人)	目標		160
	目標と前年度実績値の差		15
	実績	145	161
KPI②：就職等決定者数(正規、非正規雇用、自営・企業・請負等の人数)(人)	目標		120
	目標と前年度実績値の差		10
	実績	110	118
KPI③：無業者対象協力企業開拓数(就労及び職場体験の受け入れ先企業延べ数)(人)	目標		110
	目標と前年度実績値の差		0
	実績	110	167

【目標値と実績に乖離※がある場合の主な理由（令和7年度）】

(※目標未達成又は実績が目標を5割以上上回った場合)

- ・(KPI②)・厚生労働省が定めた目標値は117人であるが、自主目標として高めに120人と設定した結果未達成となった。
 - ・企業は人手不足だが、以下のような社会・経済情勢から地元の中小企業の雇用余力が低下しており、即戦力が難しい本事業の支援対象者は採用されにくい。①就労意欲やストレス耐性が高い外国人労働力との競合②最低賃金の引上げと人件費の抑制(有能な人材を採用、困難層を受け入れる余裕がない)③IT化の進展と単純作業の自動化
 - ・支援を必要として来所する人は就労に関して以前より困難の度合いが高くなっている。
- ・(KPI③)・支援対象者の多くが労働市場において競争力が低く一般の応募では採用されにくいため、地元の協力企業を開拓し、社会貢献の意識を醸成し働く機会を提供していただくことに注力している。
 - ・就労先は運輸(倉庫)、製造、卸・小売が中心である。職場体験の協力や応募・入職に関して配慮を得られる企業もあり、ひきこもり期間が長いケース、40歳代、中卒・高校中退等の若年層の重要な就労先となっている。
 - ・開拓員は就労支援に必要不可欠な出口機能を担っている。職場体験中や入職後も開拓員が企業を訪問し、ジョブコーチ的な支援を行い、支援対象者と受け入れ企業にとって安心できる体制で信頼関係を築いている。様々なハンディを抱えた支援対象者の採用や定着に関しても相談に応じてもらえるよう現場に働きかけている。
 - ・求人開拓企業数のべ167社(新規開拓実数85社)。

【事業の実施状況及びその成果等】

【R7年度実績】

- ・支援対象は15歳～49歳である
- ・3. の社会参加者数及び就業者数は実人数である。ただし、一人で多数のプログラムに参加するケースも多く、特に40歳代では10回以上の参加が12人うち30回以上が5人（最高63回）とプログラム参加意欲が高い
- ・柏市事業でのプログラム実績の内訳は以下の通り（参加人数はのべ数）
 - ①セミナー108回 516人参加（内訳：コミュニケーション20回、メンタルヘルス16回、農業体験6回、居場所カフェ35回、ハンドメイド5回、仲間づくりイベント1回、PC講座5日間5回）
 - ②トレーニング406回 925人参加（内訳：作業トレーニング（人に慣れる、生活リズムをつくる）181回、365人、ビジネススキルトレーニング88回78人、自習型PCトレーニング137回482人）
- ・企業説明会年6回（6社合同3回、3社以内ミニ3回）、参加企業合計27社、参加者合計111人
- ・職場体験（週20時間以上）3社、3人うち40歳代2人、短期職場体験のべ19社、参加者27人うち40歳代1人
- ・事業所見学バスツアー1回2社参加者10人、個別事業所見学のべ56社、参加者107人うち40歳代11人

【事業開始から現在に至るまでの総括】

昨年まで就職氷河期世代の就労支援として40歳代向けのセミナー等を実施していたが、令和7年度はサポステの支援対象者全体（15～49歳）に枠をひろげ就労支援を通じて「孤独孤立」を防ぐ取組を行った。どの世代においても「働けない」ことで社会や家庭で孤立しやすく、孤独を感じ、希死念慮をもつ人も少なくない。また障害・病気、介護、生活困窮や生活保護などの複合的な問題を抱えている。

こうした高リスク者の支援のために、柏市総合相談窓口・生活困窮者支援事業（あいネット）へのアウトリーチ（月1回の出張相談）を実施、また重層的支援会議や個別の支援者会議などで関係機関と密接な情報共有を行っている。

家族の孤立を防ぐため、8050問題やひきこもりが長い困難ケース、不登校のまま中学を卒業したケースなどで障害が疑われる場合、家族を含め障害の受容を促し、福祉サービスにつないでいる。

柏市社会福祉協議会と協働でラコルタ柏において不登校や中退など10、20代の若者向けの居場所カフェを月2回、多世代交流のカフェを月2回（夕方16:00～20:00）開催した。

社会参加者数（就労体験、居場所、交流事業、中間的就労等を含む）については他機関とのケース共有もしくは紹介が中心である。福祉系他機関からの受け入れは12件、うち40歳代は2人。サポステから案内したものは

- ①就労移行支援事業所紹介5件 ②障害者就業・生活支援センター/障害者就労継続支援B型紹介5件
- ③障害者相談支援事業所紹介9件 ④居場所、作品展示販売体験などに参加2件。

(6) 白井市実施事業

【事業名】 孤独・孤立支援重点対策事業（就労支援）

【事業概要】 市内在住者を含めた求職者及び市内に事業所を有する事業者等に対し個々人の適正に沿ったマッチングを支援するとともに、孤独・孤立状態に陥っている当事者やその家族等に対し、当事業に係る情報発信及び普及啓発活動を実施することで社会参加を促進する。

【KPIの達成状況】

指標名		令和6年度末 時点	令和7年度
KPI①：求職者数（人）	目標		480
	目標と前年度 実績値の差		151
	実績	329	384
KPI②：就職者数(人)	目標		103
	目標と前年度 実績値の差		34
	実績	69	68
KPI③千葉県ジョブサポートセンター主催「再就職支援セミナー」白井市主催・共催事業参加者数(人)	目標		129
	目標と前年度 実績値の差		21
	実績	108	74

【目標値と実績に乖離※がある場合の主な理由（令和7年度）】

（※目標未達成又は実績が目標を5割以上上回った場合）

- ・（KPI①）・令和6年度の無料職業紹介所来所数・相談件数・求職者数の実績は超えたものの、目標値には至らなかった。
 - ・職業紹介所は土日祝日は閉所のため、現在仕事をしている求職者には活用しづらい面がある。
 - ・無料職業紹介所で就職活動を行っている人は職住近接を希望する人が多く、待遇の良い就職先を希望する人などとのミスマッチがあった。
- ・（KPI②）・令和6年度実績をкаろうじて上回ったものの求職者実績も微増であり、目標値には至らなかった。
 - ・令和6年度の無料職業紹介所来所数・相談件数実績は超えているが紹介実績は減じていることから、求職者にマッチした求人を紹介することができなかった。
 - ・仕事が続かない・人間関係を構築するのが苦手などの複雑な問題を抱えた求職者も多く、求人者とのマッチングに時間がかかり就業に結び付かなかった。
- ・（KPI③）・セミナー会場の規模などにより目標値には届かなかった。
 - ・中高年向けセミナーについては同日に近隣市で同内容のセミナーが実施されたことにより参加者数が伸びなかった。

【事業の実施状況及びその成果等】

【R 7 年度実績】

- ・ 無料職業紹介所（休所日：土日祝日及び年末年始）
開所：毎週月曜日～金曜日 午前 9 時～午後 4 時 30 分
相談員：2 名体制（両名とも週 4 日勤務）
年間来所者数：延べ 1,991 人（前年比 118%）
- ・ 無料職業紹介所案内チラシの作成
- ・ 女性向け再就職支援セミナー 令和 7 年 7 月 30 日（水）開催 30 人参加
- ・ 全年齢向け再就職支援セミナー 令和 7 年 9 月 4 日（木）開催 30 人参加
- ・ 中高年向け再就職支援セミナー 令和 7 年 10 月 30 日（木）開催 14 人参加
- ・ 年金・労働相談 12 回開催（月 1 回）、労働相談数 9 件
- ・ くらしと仕事のサポートセンター支援調整会議への参加 12 回（月 1 回）

【事業開始から現在に至るまでの総括】

ニート・引きこもり等を担当する部署や生活に困難を抱える者のサポートを行っている部署への情報提供を行い、相談員とともに無料職業紹介所を訪れる人もいたものの、相互連携では十分な成果を上げることができなかった。

全ての事業は令和 8 年度についても継続して行っていくことから、引き続き相互連携を深めアウトリーチ支援を行うとともに、支援が必要な人の就労環境に対する希望や就労に対する思いなどの分析などを行っていく。

また、市で運営している無料職業紹介所については、利用者にとってハローワークよりも身近な場所であることから、よりきめ細やかな相談対応を行い、希望に合った求人を紹介できるよう求職者とのコミュニケーションを取りつつ、ハローワーク求人の紹介だけではなく市内事業者からの求人についてもマッチングに努めるとともに、引き続き就労のためのサポートを行っていく。